

NPO法人つるがしま里山サポートクラブ 埼玉県鶴ヶ島市



つるがしま里山サポートクラブの活動 会員(6)名による「市民の森」等の保全活動を中心に、他団体や自治会と連携したイベント開催、植樹活動、「市民の森」の生態調査など、活動は多岐にわたる。2023年度には年間約60回のさまざまな活動を行い、会員の参加は延べ552人、イベントへの市民の参加は1600人になった。写真は、越辺川支流の大谷川の清掃活動の様子。ほとんどのゴミはプラスチックゴミで、鶴ヶ島から東京湾(太平洋)にマイクロプラスチックを出さないことを目指している。



森で遊ぶ子どもたち つるがしま里山サポートクラブが整備した市民の森を利用して、縄跳りや綱渡り、川遊び、木登り体験など、さまざまな体験会を行っている。写真は、綱渡りをする子どもたち。木と木の間に垂いベルト状のラインをはって渡る。

鶴ヶ島市は埼玉県の中東部、武蔵野台地の一部に位置しており、緑が多い。堆肥に使う腐葉や薪炭をとる雑木林が広がっていたが、化学肥料の普及や宅地化に伴って里山の森は減少した。その中で市は、残された緑を守り育てていくため、1999年から市民緑地契約制度によって事業者と契約した「市民の森」を開設した。「市民の森」は、現在、市内に6か所、市民が自由に散策できる憩いの場となっている。

2002年には「市民の森」を管理する目的で、つるがしま里山サポートクラブを設立。3年後にNPO法人化した。「市民の森」3か所と市の公園「太田ヶ谷の森」を合わせた約16haの緑地の保全活動をし、市民の自然体験や環境学習活動のほか、子ども向けの自然観察・体験プログラムなどを行っている。

同クラブ代表の小澤博彦さんは「さまざまな活動を通じて、コミュニティへの参加意識を高めながら、里山の重要性や緑地の環境への影響を若い世代に伝え、高齢化が進む団体の若返りも図りたい」と話す。

2023年12月、都市化が進んだ地域で緑を守る活動を続けている同クラブは公益財団法人都市緑化機構主催の「緑の都市賞」(特別賞・第一生命財団)の国土交通大臣賞を受賞した。



竹材の利用 「五味ヶ谷市民の森」には竹林もある。放置すると増えすぎる竹を適切に利用するため、伐採して流しそうめん台や門松作り、竹細工教室などで使っている。竹の枝葉は、こども動物自然公園（東松山市）のレーザーパンダの餌や、野菜を育てるための肥料などに使われている。



流しそうめんを楽しむ子どもたち 地域の小学生たちの自然体験学習のため、流しそうめん会を行っている。



「市民の森」の竹で作った門松 12月には門松づくり教室を毎年開催し、多くの地域住民が参加している。



焼き芋作り 同クラブでは「楽しみながら地域をよくする」こと、「会員が得意なこと、やりたいことを行う」ことを大切にしている。2月の取材時には、竹の残材で焼き芋作りを楽しんでいた。

お昼ご飯 森の保全活動は朝から夕方まで続くこともあるため、お昼ご飯を同クラブが用意している。お昼ご飯は活動に参加した人たちが和やかに談笑しながら交流する機会にもなっている。



記念撮影 取材日には、会員14人が活動に参加していた。高齢者が多く、最高齢は80歳。今後は、若い世代の会員を増やしていき、長く活動を続けていきたいと語ってくれた。